施設名

就労支援事業報告

● 事業目標

- 1、個別支援の充実
- 2、報酬改定に柔軟に対応しつつ、改善要求をする
- 3、メンバーひとりひとりが「必要とされている」、「役立っている」と感じられる仕事や役割の創出
- 4、「シフォンケーキ販売店」となる従たる事業所設置への検討と準備
- 5、関係機関や地域住民、ボランティア、メンバー家族との交流をより深める

● 事業報告

- 1、繁忙期はスタッフが作業に追われ、個別支援に影響した。 重要度が低い下請け作業を終了し、「事業の効率化」と「支援の充実」を図った。
- 2、「工賃アップ」「報酬アップ」を目的に、工賃向上セミナーをスタッフ全員で受講。 精福協を通して報酬改定の内容に関する改善要求を市に対して行った。
- 3、スタッフだけで行っていた作業の一部を、メンバーへ移行。メンバーのスキルとモチベーションがアップ。
- 4、セミナー受講の結果、今は従たる事業所となる販売店設置の前に、 今の場所で地域住民に「シフォンケーキ屋」として認知してもらう方向へ切り替え。
- 5、毎月レクリエーションを開催し、メンバー・スタッフ・ボランティアの交流を深めた。 また事業所外での活動にも積極的に参加し、関係機関との連携強化を行っ (月平均/人)

通所人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
29年度	15.4	14.6	14.3	16.0	15.1	16.5	15.5	15.2	14.0	13.7	14.6	14.5	15.0
30年度	14.5	13.6	14.6	14.0	15.8	16.9	14.9	15.6	15.8	15.4	13.5	14.5	14.9

授産への取り組み

● 活動報告

- ・ 生姜のシフォンケーキが「ときめきセレクション2018」入賞。関連イベントに出店。
- ・長年、据え置きしていた焼き菓子の価格改定を実施。値上げによる影響はなし。
- ・ 11月より油山病院売店に、シフォンケーキとクッキーを定期納品させて頂く。
- ・ メンバー発案のクッキーを商品化。委託販売先でも売れ、主力商品になりつつある。
- ・ グリーンコープ帳合の部数を週2,000部から2,400部に増やした。今後3,000部になる予定。

● 成果のあった点

- ・ 工賃向上セミナー学んだことを販売会で実践し、販売のスキルアップと売上増に繋がった。
- ・ シフォンケーキの売上が増え、メンバーに期末手当を支給することができた。
- ・メンバーと共に商品開発したことで、事業所とメンバーの双方に良い効果が得られた。

● 今後の課題となった点

- ・ 繁忙期(9~12月)はスタッフが作業に追われ支援に影響。→メンバーができる工程をさらに増やす
- ・ 仕事への思いや姿勢が幅広い(ゆったり~バリバリ)。→仕事と工賃に差をつける、従たる事業所も検討。
- ・ 小型オーブン1台の為、シフォンケーキが1日に10ホールしか焼けない。→設備投資

その他

● 実習の受入

・麻生医療福祉専門学校、ILPお茶の水医療福祉専門学校、FCフチガミ医療福祉専門学校より各1名

● 年間行事の実施状況報告

8月:カラオケ、買物(木の葉モール) 4月:茶話会・歓迎会 12月: ヒルトンランチ、 クリスマス会

1月:初詣等、買物(マークイズ福岡) 5月:バスハイク(佐賀県唐津市) 9月:食べ放題、合同スポーツ大会

6月:バーベキュー 10月:福岡市動植物園 2月:食事会(山賊や) 7月:海を見ながらランチ 11月:繁忙期のため無し 3月:お花見(室見川沿い)

● 会議、研修等

- ・スタッフ会議(24回/年)
- ・早良区医療福祉連絡会議(4回/年)
- ·精福協定例会議(10回/年)
- ・凸凹ネット定例会議(12回/年)
- ・凸凹ネット施設長会(2回/年)
- ・工賃向上セミナー(全4回)
- · 食品衛生責任者養成講習会
- ・食品衛生講習会
- · 社会福祉施設新任職員研修
- ・精神保健福祉士実習指導者講習会
- ・サービス管理責任者研修(就労)
- ・サービス管理責任者研修(地域生活)
- ·相談支援研修
- ·精福協勉強会
- みんなの集い
- ・ハートメディア
- 防災訓練



就労支援事業報告

● 事業目標と計画

- ・利用者や家族との信頼関係の構築:通所ペースの維持・向上
- ・支援体制の充実:研修などによる専門的知識の向上や経験の蓄積
- ・就労支援体制の充実:就労アセスメントによる目的意識の確認、職員の専門的知識の向上
- ・各機関との連携:早期の相談、会議の開催、本人の支援方針の情報共有
- ・地域連携:舞鶴地区での行事参加、あいれふビル内でのイベント協賛

事業報告

- ・不調による長期欠席・入院が続き、通所者数が減少した。その対応方法や、それを踏まえた利用者の 受け入れ方が大きな課題となった。一方で、これまで以上に家族と連携して状況確認を行ったり、 本人の意思決定により方向性を検討することができた。
- ・研修を随時受講。職員間研修(病状理解や対応方法など)も必要。
- ・利用者の不調や方向性について、各機関へ早期相談を行うことで、各機関からも本人への アプローチを実施することができた。
- ・行事参加、協賛企画などを実施し、地域や館内連携を深めることができた。

(月平均/人)

通所人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
29年度	9.3	10.2	10.2	10.5	11.5	10.5	9.9	10.9	11.3	10.4	11.0	11.5	10.5
30年度	10.5	10.6	10.7	9.2	8.4	8.3	9.3	8.5	8.5	8.2	8.6	9.6	9.2

授産事業報告

● 事業目標と計画

・接客対応、サービスの向上:接客マニュアルの見直しおよび訓練

・コストのバランス強化:原価コストの確認、経費の見直し

・メニュー開発:定番メニューの見直し、限定メニューや自主製品の開発

・地域への認知度アップ:チラシ配布、販路開拓

・利用者工賃の向上:『自分たちのお店』という認識の向上、自主的な行動

・訓練機会の提供:作業場内でのコミュニケーションの充実、生活リズムの安定

・定期的な入出荷による収入の維持・向上:下請け業者との信頼関係の構築、期日厳守の的確な作業

・新たな作業の開拓:一定の作業量、収入源の確保

^{受付・珈琲}・業務の定着と認知度の向上:職員、利用者の人員確保とスキルアップ

Slowth・新たな使用方法の模索:珈琲以外の商品の提供や訓練提供としての可能性を探る

● 事業報告

茶

茶

- ・利用者主体によるケーキの作製を実施した。他業務も徐々に目的意識が変わってきた。
- ・喫茶従事利用者が手薄であり、チラシ配布など頻回に行えなかった。人員体制や店舗の外部周知が課題。
- ・接客スキルアップや店舗内見直しなど、見直すべき点が多々あったため、次年度に活かしたい。

軽 作 業

- ・新作業(美容室と提携)への取り組みを開始し、意欲的に取り組んだ。利用者不調により生産性を考慮する 必要があったが、利用者が病状等を理解し合いながら一定量の納品を意識して取り組むことができた。
- 下請け作業と新作業に対する利用者の能力が様々であったうえ、入荷と納品のバランスが安定しなかった。

Slowth

受付・珈琲|・リピーターが増えてきたが、人員体制(喫茶とのバランス)が課題。現状の取り組みに対する見直しや今後 の見通しを検討する必要がある。

その他

● 実習の受け入れ

・筑紫女学園大学 (7~8月:1名)、麻生医療福祉専門学校 (8~9月:1名)

)職員研修、スタッフ会議

- ・スタッフ会議(毎月1回以上)
- ・福岡県精神保健福祉会連合会
- ・就労支援連絡会(5月、7月、11月、2月)
- ·食品衛生管理者研修(6月)
- ・福岡市精神保健福祉センター運営協議会(8月)・就労移行支援事業所研修会(7月)
- ·就業支援実践研修(11月)
- · 筑紫女学園大学実習懇談会(2月)
- ・あいれふ(保護会館)防災・消防訓練

) その他行事、イベント 等

- ・中央区役所フラワーウィーク出店(5月)
- ・舞鶴地区行事(夏祭り:9月、文化祭:10月)
- ・健康フェア協賛(10月)
- ・西南学院大学学園祭出店(11月)
- ・クリスマス会(12月) ・初詣(1月)

- ·福岡市精神保健福祉協議会(毎月第2土曜日)
- ・あいれふ定例会(毎月第2木曜日)
- ・ちゅうちゅうネット研修会(9月、2月)
- ・障がい者就労事業所・経営者研修(6月)
- ・ゲートキーパー研修会(9月)
- ・あみ研修会(2月)
- ・みんなねっと九州ブロック熊本大会(2月)
- 暑気払い(7月)
- ・合同スポーツ大会(9月)
- ・ハートフルフェスタ協賛(11月)
- ・市民糖尿病教室(医師会コラボ)(11月)
- ・みんなの集い/ハートメディア(2月)

就労支援事業報告

● 事業目標

- 1. 利用者と職員が本来の自分を発揮し、いきいきと過ごせる自由な雰囲気の場を作る。
- 2.利用者が自分の未来に夢を持ち、自分の希望をかなえられる場所であるために、利用者との距離が近い、それぞれの事情に沿った個別の支援を強化する。
- 3.作業工賃のアップを目指す。
- 4.スタッフ技術向上のための研鑽、研修。自主的に動ける臨機応変な対応のできる職員の育成。
- 5.利用者家族、他機関、計画相談事業所との連携。

● 事業報告

1.自主製品制作と請負作業を組み合わせて作業を行っている。 自主製品は、レジンアクセサリーの制作、花たわしの制作を行っており、地下鉄西新駅モモショップ、ふくふくプラザ、ときめきショップトライに常時置かせてもらっている。注文も相次ぎ入っており、月にして15,000~20,000円の収入となっている。請負作業は帳合、ねぎ加工、銀のさら寿司セット、ダルケメール封入、飯倉公民館清掃などを行っており、昨年度は作業量がかなり増えている。

- 2.毎日の利用者出席率が上がっており、活気のある毎日が過ごせている。連動して、報償費収入も上がってきている。
- 3.見学の問い合わせも多かったが、H31年度生活訓練再開予定の為B型の定員を14名とする予定で、3月時点で新規利用の募集を保留している。(今後のさらなるB型の需要を感じる。)
- 4.ステップアップを図る利用者がいなかった。 個別面談の際も「このままピアつばめに通いたい」とする利用者がほとんどで、今後は各自の事情に合わせてステップアップの提案、支援にも力を入れたい。
- 5.10月末に別府への一泊旅行を実施。 初めてのホテルでの一泊、温泉、観光をみんなで満喫した。
- 6.重留に借りている畑では、玉ねぎ、サツマイモなどが豊作だった。今後は生活訓練でも利用の予定。 _(月平均/人)

通所人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
29年度	13.8	13.0	14.6	15.1	14.8	15.6	14.4	14.1	14.4	14.0	12.9	15.0	14.3
30年度	15.7	15.5	16.7	15.9	15.0	16.0	16.0	16.0	16.2	15.1	15.7	16.4	15.9

授産への取り組み

● 活動報告・課題

- 1.利用者工賃が、7段階の最下位から一段階レベルアップした。 報償費アップのためにも、さらに一段階上のレベルを目指して努力、工夫をしていきたい。
- 2.レジン作品については、売り上げも伸びているが、同時に材料費が思いのほか多くかかっている。商品の適正価格の検討を行い、新商品の開発や納品量の増加を目指すとともに、丁寧な作品作りに努めたい。
- 3.請負作業中心だと、どうしても工賃の一万円超えは難しい。 将来的には、食品の製造や販売など新しい形態の事業を考えていきたい。
- 4.作業が多忙となり、常時締切に追われており、個別対応の時間がとりづらいが、昨年度は合間を見てまんべんなく個別面接の機会を作れた。見えないところの課題を見つけて支援を強化していきたい。

その他

● 実習の受入

H30年度、精神保健福祉士実習指導者資格取得・・・1名 特別支援学校福岡高等学園より実習1名受け入れ。

● 職員研修、スタッフ会議

社会福祉施設基礎研修、病気に関する勉強会、精神保健福祉基礎研修会、

障害者の働く場パワーアップフォーラム、苦情解決従事者研修会、

九州ブロック家族会精神保健福祉推進活動研修会熊本、県社会就労センター協議会職員研修会

● 行事

一泊別府旅行、カラオケ、クリスマス忘年会 お花見、ボーリング、博物館見学等 調理実習

地域活動支援センター事業報告

● 事業目標

- ・地域で暮らす障がい者が、安心して過ごせる居場所作り、仲間と出会い交流をしたり、地域社会とつながる機会を 持つことにより、地域で豊かな生活を送れるよう支援を行う。
- ・「人と人がつながり支え合う」ことを大切にし、利用者の孤独感を軽減し楽しみや役割を見出せるよう支援を行う。
- ・職員の成長のため、研修会などに積極的参加し、学んでもらう。

● 事業報告

- ・安心して過ごせる場の提供、様々な相談対応、食事提供、サークル活動、電話相談などを行った。
- ・利用者を常に温かく迎え、個別相談ではひとりひとりの生活スタイルに沿った対応を心掛けた。
- ・つなぐ支援を意識し利用者が様々な場面で役割を持ち、自尊心を回復できるよう心掛け支援を行った。
- ・時間調整が難しい中で研修参加に努めた。

|型事業への取り組み

● 目標・課題

- 1. 個別支援の充実 (全ての利用者が「ここに来て良かった」と思えるような人と場の提供)
- 2. 交流事業の充実 (活動の充実、家族学習会による家族支援)
- 3. 他機関との連携強化 (連携を強化し、適切な支援を提供できるようにする)
- 4. 地域交流の推進 (原公民館、校区人尊協、地域住民との連携)
- 5. ハード面の改善 (快適な空間を提供できるよう、施設の設備を整理し、美化に努める)

● 活動報告

- 1. 研修や事例発表を通して様々な障がいに向き合い、利用者それぞれにより良い支援が提供できるように努めた。また、全ての利用者が気持ちよく利用できるように最低限度のルールを設け、フリースペースにスタッフが常駐できるように心がけた。
- 2. 家族交流会に加えて他 | 型センターとの意見交換会を行い、得た情報を活動に活かした。
- 3. 利用者の支援について、医療・基幹・行政等との情報共有に努めながら支援を行った。
- 4 イベント参加依頼やつばめ祭りの準備、改修工事に伴う挨拶や連絡等を通してぷらっとの存在を知って頂いた。
- 5. 改修工事で外壁・喫煙所のドア・窓などの不具合を修理し、安全に利用して頂けるようになった。

その他

● 実習の受入

平成30年度は、大学と専門学校から計4名の実習生を受入れた。(西南学院大学、久留米大学、フチガミ医療福祉専門学校、お茶の水医療福祉専門学校)

● 職員研修、スタッフ会議

職員の資質向上、援助技術の充実をはかる為、それぞれの経験年数や立場、能力に応じた専門研修の受講を積極的に すすめた。スタッフ会議は毎週月曜日に行った。

● 居住サポート事業

賃貸契約による一般住宅への入居を希望しているが、保証人がいない等の理由により入居が困難な障がいのある方等 に対して、入居に必要な調整・家主等への相談・助言も含めた地域生活支援を行った。

● 在宅処遇支援事業

生活保護を受給し、居宅生活を送る障がい者に対し、当該世帯の社会的自立を目指して区保護課及び関係機関と連携しながら、さまざまな課題への相談・支援を行った。

▶ 平成30年度登録者数 145人 (前年度 121人)

▶ 月別来所者数・電話相談件数

1日平均(人/日)

来所者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
29年度	31.5	38.5	37.3	34.5	35.5	39.7	33.1	30.7	33.8	28.9	29.8	32.1	33.8
30年度	29.4	31.7	30.3	33.3	31.7	29.6	35.2	32.3	32.8	29.8	32.2	30.9	31.6

1日平均(件/日)

電話相談	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
29年度	19.9	21.3	18.7	16.9	16.0	14.9	16.9	13.0	14.1	17.5	20.3	20.0	17.4
30年度	21.5	18.8	17.0	15.5	17.9	19.0	18.0	16.4	16.1	19.5	20.0	19.6	18.3

西区第1陸がい者基幹相談支援センター 施設名

一般相談 事業報告

相談内容種別統計

① 障害者の暮らしの相談 53件

・引きこもり相談 ・退院後の生活 ・生活全般について見立て・相談 ・受傷後の生活相談

・親無き後の相談 ・転居相談 ・就労相談 34件 ② 福祉サービス利用に関する相談

・相談支援事業所について・福祉サービス利用申請について・サービス利用調整

· 事業所情報提供

③ 専門機関紹介

・就労支援センター ・ゆうゆうセンター ・就労・生活支援センター・自立生活支援センター

④ 権利擁護 6件

· 後見制度利用 ・その他権利擁護

⑤ その他 27件

・ケアマネージャー同行 ・ケース会議参加 ・包括支援センター同行 · 行政同行 ·SSW相談 ・民生委員相談

・地域資源情報提供 ・支援者SV

相談者類型別統計

月別障害種別統計 62件 ● 本人、その家族

● 事業所 10件 【年間合計 136件】 ● 医療関係者 12件 ▶ 触法障がい者 :5件

● 計画相談支援事業所 15件 ▶ 虐待対応 : 3件 ▶ 夜間休日緊急対応:20件 ● 行政 11件

等含む

● いきいき支援センター 10件

● 司法関係者 3件 ► H29~H30年度

継続対応件数:413件

月	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳	その他
4	3	0	2	4	1	0	2
5	2	0	2	2	1	0	2
6	0	0	3	1	0	0	0
7	2	0	0	4	0	0	2
8	2	0	1	4	0	0	3
9	1	0	1	3	2	0	4
10	1	0	0	10	2	0	2
11	2	0	3	4	0	0	2
12	3	0	3	2	0	1	1
1	3	0	4	6	2	0	6
2	2	0	1	5	2	0	1
3	2	0	2	6	1	0	3
計	23	0	22	51	11	1	28

* H30年度相談対応実施フローチャート

① 電話相談 ⇒情報提供(終了)

② 情報提供外の相談について、センター内協議を実施

⇒面談、訪問によりケース詳細のアセスメントを実施

③ アセスメント後 a.対応終了 b.継続支援実施

④ 継続支援 a.基幹センター単独支援 b.他事業所との連携支援

☆課題の整理を行う中で、フォーマルサービスの利用が可能な場合は、④-bでの支援を実施することで、業務の軽減が実現。

地域生活支援拠点等整備事業報告

① 区ごとのネットワークの構築

·実行委員会:毎月第1金曜日10:00~実施

*実行委員編成:各サービス種別で募集をし、H29年度より選定

・研修会:7/9(月)18:30~『社会福祉協議会について知ろう』

2/22(金) 18:30~ 『よりよい支援のためにスタッフ同十で語りあおう』

・勉強会:11/2、9(金)13:30~、18:30~『暗やみ・ロービジョン体験会』

*国立福岡視力障害センター

② 相談しお延事業所のネットワーク構築、専門的な助言、人材育成

「西区相談あつまろう会」:1回/3ヶ月、第2木曜日13:00~年4回実施

「西区相談支援事業所勉強会」・5/22『事業所の事務処理方法について』

・9/4『特例支給のケースについて』

・12/4『報酬改定に関する資料の読み込み』

· 2/5『連携事例検討』

③ 区内の地域福祉の基盤つくり

〈講師・講演〉 特別支援教育連携協議会 ・事業所研修 ・ ピアスタッフスキルアップ 研修

・九州大学病院精神科デイケア ・家族講座

〈会議・業務説明〉 ・民生委員会 ・圏域会議

〈聞き取り〉 ・退院促進に向けた各精神科病院の取り組み

〈見学〉 ・強度行動障がい者支援センター「か~む」・医療型短期入所・・緊急時拠点

〈その他〉 ・特別支援学校の仕組みと学校連携について意見交換

> ・医療観察対応について意見交換 ・精神障がい者退院後支援について意見交換

④ 緊急時の対応に関する取組

〈緊急時受入・対応拠点〉 ・事前登録 ・対象者リストの作成 ・事業所向け説明会